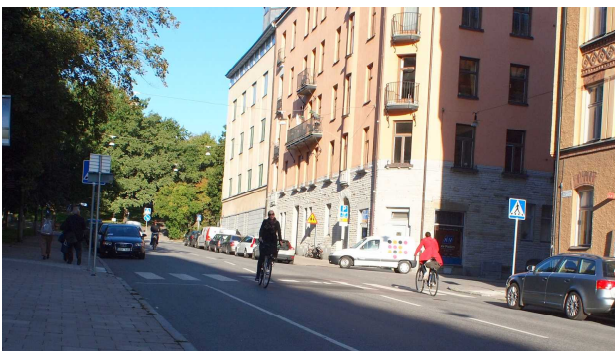


## 報告4 スウェーデン 精神障害者のサポート住宅



道向は保育園、グループホームは市営アパートのなかにある



私たちがストックホルムで滞在したホテルは、クングスホルメン（Kungsholmen）地区にあり、ミステリー小説でおなじみという市の裁判所のそばで、緑の多い閑静な住宅街にあった。

午前には訪問する精神障害者のサポート住宅は、歩いて数分のところにある。こちらは「成田空港発組」が訪問した。

あ！ なに？ うさぎ？！ ええー！！

途中の大きな公園の入口で、確かに野うさぎを見た。その公園の隣には保育園があり、道路を挟んだむかひの市営アパートの中に精神障害者のグループホームがあった。

市のスタッフというシニータとシルビアが待っていてくれた。10年目というこのグループホームは市が住宅を確保し、3人のスタッフが6つのアパー



トの住人の世話をしている。一つのアパートはカップルだという。

朝の8時～10時に、スタッフは起床や、朝食、話しをして自立した生活のサポートをする。特別な日にはみんなで集まったり、計画してランチを食べたりするが、普段はそれぞれのアパートでそれぞれが暮らしている。いつもオープンなので、アパートの住人とのトラブルもない。

スタッフはこのグループホーム専任ではなく、朝・昼・夜と一日で23人をサポートしている。病院から退院した人など慣れない人の難しいケースのと



きなどは土日勤務する。そういう場合は、「プラスα」の賃金ではなく、現場でやりくりして、必ず「休暇」をとる。

スタッフの専門性は、病院の精神科で働いていた人や高校のケアコースで学んだ人たちが、現場で働きながら、いろんな研修で学んでいる。

\*

部屋を見せてくれた男性は5年前に越してきたという。昼間はコープで仕事をしている。アパートでは、本を読んだり、テレビをみたり、音楽をきいたり、パスタも得意。「快適です」と言って、ほほえんでいた。  
(菌部英夫)